

令和 5 年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな たくましい子	重点目標 「いろいろな経 験を通して自分づ くりをする」	(小さなことでも) 子ども自身が選んだり、決めたりして夢中になってあそびに取り組めるように、子どもの気持ちを読み取っていく	子どもがやりたいと思った時にできるように園庭や室内の玩具の配置や廃材、可動玩具、自然物など素材の提供を行い、「自分で選ぶ」を意識した。遊びの様子を見ながら、もっと楽しくなるような環境を考えたり「どうしたいのかな」と子どもと一緒に考え選択肢を見つけたりしながら決められるよう「共同制作や劇ごっこ」の時にはイメージを出し合い「もっと〜」と子どもが夢中になって遊ぶ姿を大切に保育者自身も子どもと一緒に楽しんで遊ぶようにした	A	A	子ども達が遊んでいる写真を見ると、とても楽しそうに、集中している姿が見られる。子ども達が自分のやりたいことに取り組んでいる姿が良いと思う。	夢中になって遊んでいる子もいるが、遊びを転々とする子もいる。三輪車置き場が目立ってしまうので、環境の見直しをしていく。ボール置き場を活用していきたい。
		自分の思いを大事にして伝えようとしたり、相手の思いに聞き、話を聴こうとする姿が育つようにかかわる	うまく言葉にできない子には、確認しながら言葉にして相手に伝えるようにした。子どもの話を丁寧に聴き、ラップの時に双方の思いを聴き、代弁したり伝え合ひの仲立ちを行ったりして、相手の思いに聞きながら進んでいくようにした。年長など、年齢の高い子には保育者が解決するのではなく、保育者も子どもと一緒に考え、子ども達同士で解決できるように関わっていた。	A	A	自分が助けてもらうという経験を幼いことで、連鎖して子ども達も友だちを助けてくれるようになっていくのではないと思う。 将来、大きくなるまでに「自分で学ぶ」「自己選択」を大事に基礎基本をつけていき、困ったときに自分で対処できる子になってほしい。	幼児は子ども自身が思いを伝えられるように、見守る、待つを多くしたことで、子ども同士が思いを伝える姿が出てきているので、続けていきたい
		困った時に、まわりに頼り、大事にされたという感覚がもてるようにする	日々の生活の中で、子ども達が困ったりつまづいたりした場面を見逃さないようにし、子どもの気持ちを受け止め、じっくりと話を聞いていった。子どもが考えている姿を友だちにも伝えながら、子ども同士がつながり合う機会を意識してつくっていた。更に一人一人の成長過程を把握し必要に応じた対応ができるようにしたい。	B	B	保育者に安心して頼れるので、幼児は子ども同士をつなげていきたい。また「〇〇のことは〇〇先生に聞くよ」など子ども達が保育者の得意なことを知って、発見を伝えたり話ができるように、園全体の職員でかかわって保育をしていく	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標に向けて教育・保育を行う	学年目標に向けて、子どもの姿や育とうとしている部分を捉え、経験させたいことや願いを踏まえた保育計画を作成し、保育をしている。クラス内で、月ごとのねらいを話し合い、子ども達の発達、興味関心を保育に活かした。	A	A	畑について「〇〇をとってきたよ」と報告してくれる姿がある。家に持ち帰った野菜を、夕食に出すと「これは、園員が持ってきたもの?」と、言い、大事に食べる姿も、とても良い体験をしていると思う。	個々の発達を理解し、来年も継続して学年目標を意識し教育・保育を行っていきたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の育ちや生活リズムを大切に、子どもが安定した気持ちで園生活が送れるようにする	送迎時には、保護者と家庭、園での子どもの様子を伝えあい、共有した。個々の生活リズムや体調に合わせて関わることで、安心して過ごせるようにして保育を行っていた。	A	A		情報共有しながら、職員みんなで子ども達を見ていくようにする。保護者には成長過程の姿についても丁寧に伝えていきたい
	(3)環境を通して行う教育及び保育	畑や山で子どもの好奇心、探求心を育み、身体づくりをする	園の近くにある畑に繰り返し行くことで、水やりや収穫だけでなく、草花や生き物の発見を通して、自然の中でいろいろな体験をしている。また、自然物をどんぐりマラカスなどの手作り玩具や、さつまいもの皮をリースにしたクリスマス製作などの遊びに取り入れている。	A	A		今年度は飼育を楽しんだので、来年も継続して近くの畑や山、地域を活用し、くり返し歩いて触れ合っていて、自然物でも遊び、葉っぱの大きさ比べや自然が育っていく発見、不思議さを味わえるようにしていきたい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定した訓練を実施し、避難の仕方を考えていく	年間計画に沿って、様々な災害を想定し、訓練を行った。子ども達に避難の仕方を伝え、職員間では避難時の動きを確認しあっていた。訓練後、反省を出し合い、改善点を次回につなげていった。子ども達も訓練を重ねることで、避難の仕方を身につけている。	A	A	災害時自治会館、こども園など、実際に避難場所としてどこが安全なのか?備蓄品など、住民が集まったら1日も持たない(足りない)と思う。興津交流館は、海に近いので避難場所にはならない。安全場所はどこなのか?と考えていかなければならないと思う。 家庭で園の避難訓練の様子を子どもが伝えていく	さまざまな災害の避難場所や避難の仕方について職員全員で協力して考えていく。必要な備蓄についても地域の方々に協力してもらう機会をつくる
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	感染症対策を含めた保健指導を行い、子どもが健康な生活を送れるようにする	登園時の聞き取り、室内の消毒や換気や気を付けていった。保健指導の絵本を通して、風邪の予防などを子ども達にわかりやすく伝えたり、手洗い、衣服の調節、季節にあった布団などについてもボードなどで保護者に伝えた。子ども達の体調や感染症について職員間で共有した。	A	A		年齢の大きい子は、自分でなぜするのか、どうしたらよいかなど考えて行動できるようにしたい。手洗い、うがいについて、個々のタイミングで行いながら、保育者は確認したりかかわっていくようにする。幼児は自分の体について関心を持つようにしていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性に応じた支援を行い、良いところを伸ばしたり活かしたりして子どもが自己肯定感をもてるようにする	サポートプランを作成し、一人一人の特性に応じた支援方法を考えていった。職員が気になる子について話し合い、より良いかわり方や支援方法を検討した。また、話し合いの内容を職員会議で共有するようになった。	A	A	「チュウをした」と言うので、感染症のことも注意してほしいので、クラスで気を付けてほしい。	個々の支援計画に基づき、全職員が共通理解し、支援出来るよう引き続き会議や打ち合わせなどで情報共有していく。支援児だけでなく、気になる子へのかかわりについてケース会議で園全体で話し合い共有したりかかわっていくようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌や役割を意識し、協力して園運営を進める	分掌のリーダーが中心となり、全体的計画に基づいて役割分担をしながら行事の企画、実施をしていた。職員間で声を掛け合い、相談を重ねながら進めていったが、計画が遅くなってしまい準備が大変なときがあった。	B	B		行事については子どもにとってよりよい経験の積み重ねとなるよう、内容の見直しや必要性等、職員間で検討し、企画書作成につなげていく。全員で分掌をフォローしながら取り組める体制を考え、行っていく
6 研修	(1)研修体制の充実	職員が研修の日の手だてを意識して、子どもの遊びにかかわっている	子どもが楽しそうに遊んでいる姿を見て、保育者も一緒に仲間入りし、子どものおもしろさを感じ、小さな発見や気づきを受け止めて遊ぶようにした。園内研修では、日々の手だてを意識してエピソード研修を行い「8つの問」の用紙を活用し、意見交換することで、子どもの思いや関わりについて考え、ことも理解を深めていった。また、困ったことを記入することで悩みを共有し、自分だったらどうするだろうと話し合い、保育につなげていった。	A	A	自然に恵まれているが、大木の根っこにつまづくこともある。年齢が大きいと自分で考えて回避する力が出てくる。これをすると「どうなってしまおうか」など、予測し考える力を持つようになってほしい。自分で考えていくことを大事にしたい。『自分で自分の身を守る』をこれから大事にしたい。	引き続き、職員全員で取り組める手だてを考えていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	小さな気づきをすぐに改善し、安全な環境をつくる	毎日の昼打ちあわせで、その日のヒヤリハットや怪我の報告を行い、情報共有し改善に努めていった。改善が必要なのは直ぐに考え対応したり、環境を整えるようにした。特に改修工事をはじめると、職員、子ども達、必要に応じて保護者に連絡したり張り紙など行い環境を整えた。その都度ヒヤリハット報告書を入力したが、報告書が活用されなかったで、今後は活用を考えていきたい。	B	B		毎日の昼打ちあわせで、その日のヒヤリハットを報告して職員間で共有していく。改善策を具体的に明確にし、気づきを保育に活かしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもが育とうとしているところを保護者に伝える。また、保護者の思いを聴いていく	日々の連絡ノートや、クラス、園だより、写真を使ったボードの掲示などを通して、園での子どもの様子や保育について保護者に伝えていった。また、送迎時や行事、クラスアンケートなどを利用して、保護者の意見を聞きながら、その思いに応えていった。後半の参加会では、保護者のおしゃべり会を行い、保護者同士のつながりが深まるような機会をつくった。	A	A	以前は公開同士での交流会は行われていたと聞いている。興津地区の園が交流を持つことで、入学した時に顔見知りができていることは良いことだと思うので、ぜひ、続けていきたい。「あしたもいきなさい」「学校が楽しみ」という声がたくさんだと嬉しい。入学してから学習が大変にならないように『スタートカリキュラム』を作成していきたい(小学校)。	保護者に子どもの育とうとしている姿や過程、成長を送迎時やお便りなどで知らせていく。引き続き環境整備時や参加会など、保護者同士が触れ合う機会を大事にしていきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の園や近隣の学校と交流活動を深める	近隣園の公開保育に参加し、保育について学び共有した。年長児が就学する小学校(興津北、小島小)へ訪問し、授業と一緒に受けたり図書室訪問を行い、交流会を実施、情報を共有したりしながら、連携をとり、安心して就学できるように交流した。今後の予定として、年長児と小学校5年生との交流会を計画している。2月には認定こども園ももはな、東海幼稚園、ふたば保育園との交流を予定している。	A	A		地域の年長児の交流会など、継続していく。次年度も計画を立てて数回行っていきなさい。小学校との交流、中学生の職場体験の受け入れなど、地域との関係をつくり情報を共有する
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもが様々な人や自然、文化に関わる機会をもち、園だけではできない体験を積み重ねる	あいあいクラブの参加や独居老人とのふれあい会で、地域の方と交流したり、地域の方の畑で作物の収穫体験、勤労感謝訪問を通して、つながりを大切にしていた。今後、2月の寒桜まつりに参加する予定。	A	A		楽しんで交流ができているので、更に地域の方と、自然なふれあいなどができるように声かけやかわりを持っていきなさい